

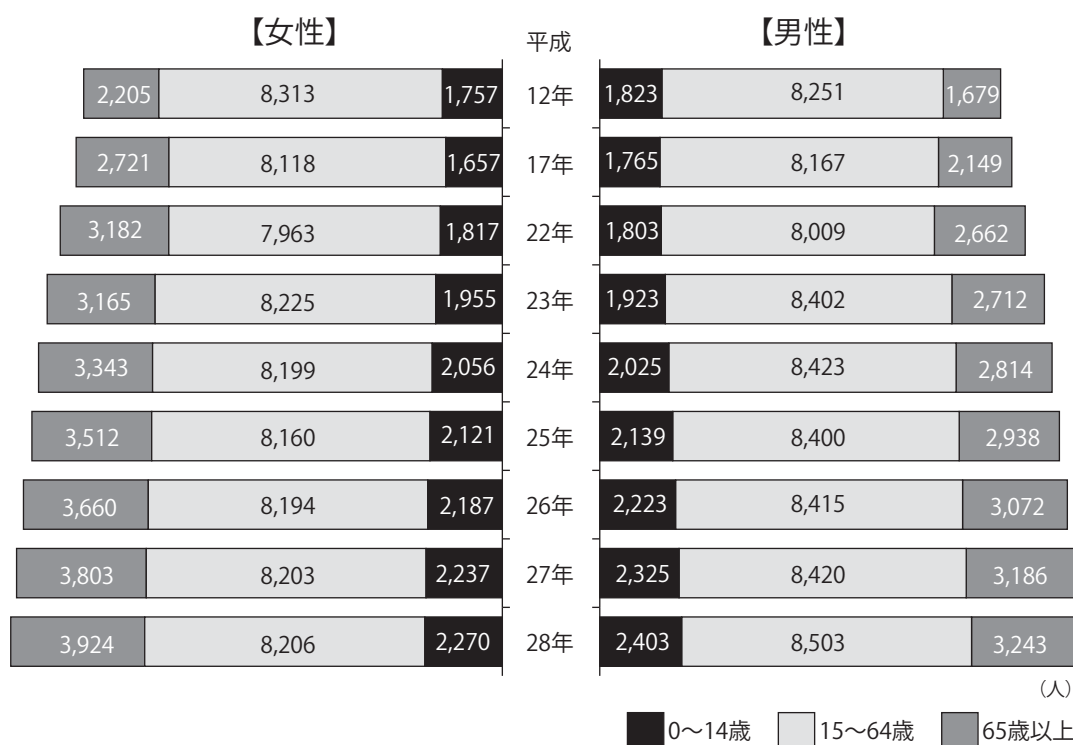
第2章

男女共同参画をめぐる 現状と課題

1 阿久比町の基本情報

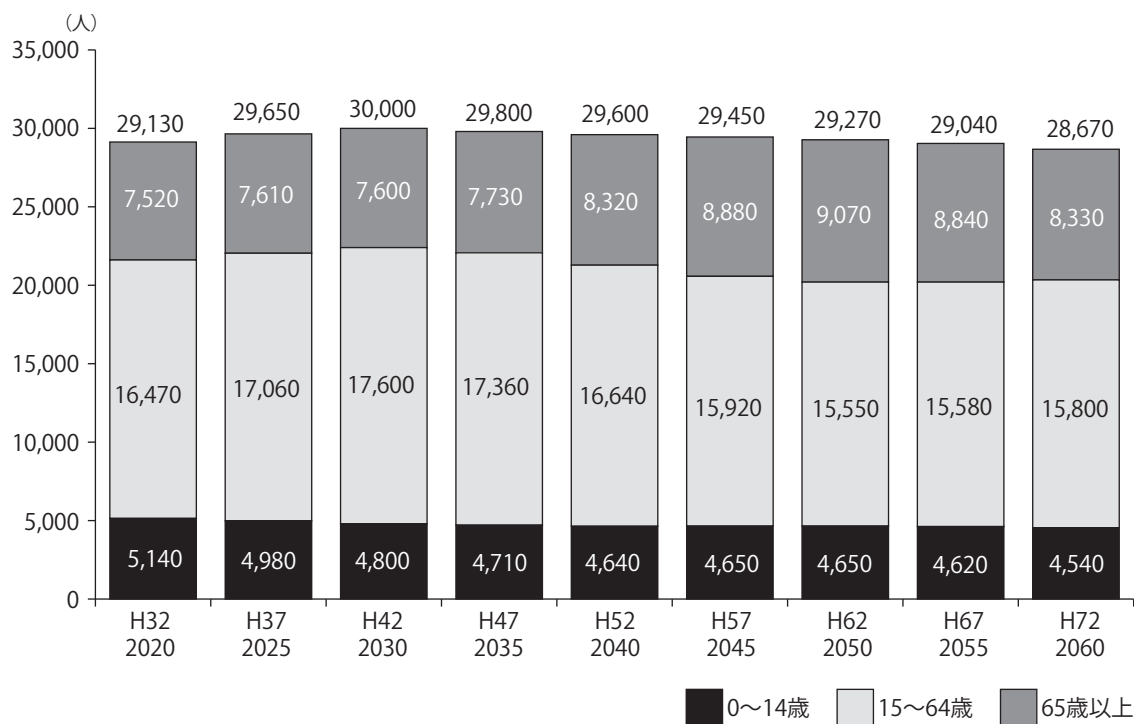
日本では、人口減少、少子高齢化が進行していますが、本町の人口は平成12年から28年までは増加し続けました（図1）。また、子ども（0～14歳）の数も増加しています。これは、陽なたの丘地区の住宅開発が大きな要因となったといえます。しかし、今後、今回のような人口増加の大きな要因がなければ、阿久比町人口ビジョン（平成28年3月策定）で示された推計シミュレーション結果（図2）が示すように、本町においても将来的には人口減少と少子高齢化が進行することが考えられます。

図1 阿久比町の人口の推移



※各年とも10月1日時点。
 (参考資料) 阿久比町住民基本台帳

図2 阿久比町の人口推計シミュレーション結果



※阿久比町人口ビジョンでは、人口推計シミュレーションを行いました。
今回の参考資料では、総人口が最も多い結果を採用しました。

(参考資料) 阿久比町人口ビジョン(平成28年3月策定)

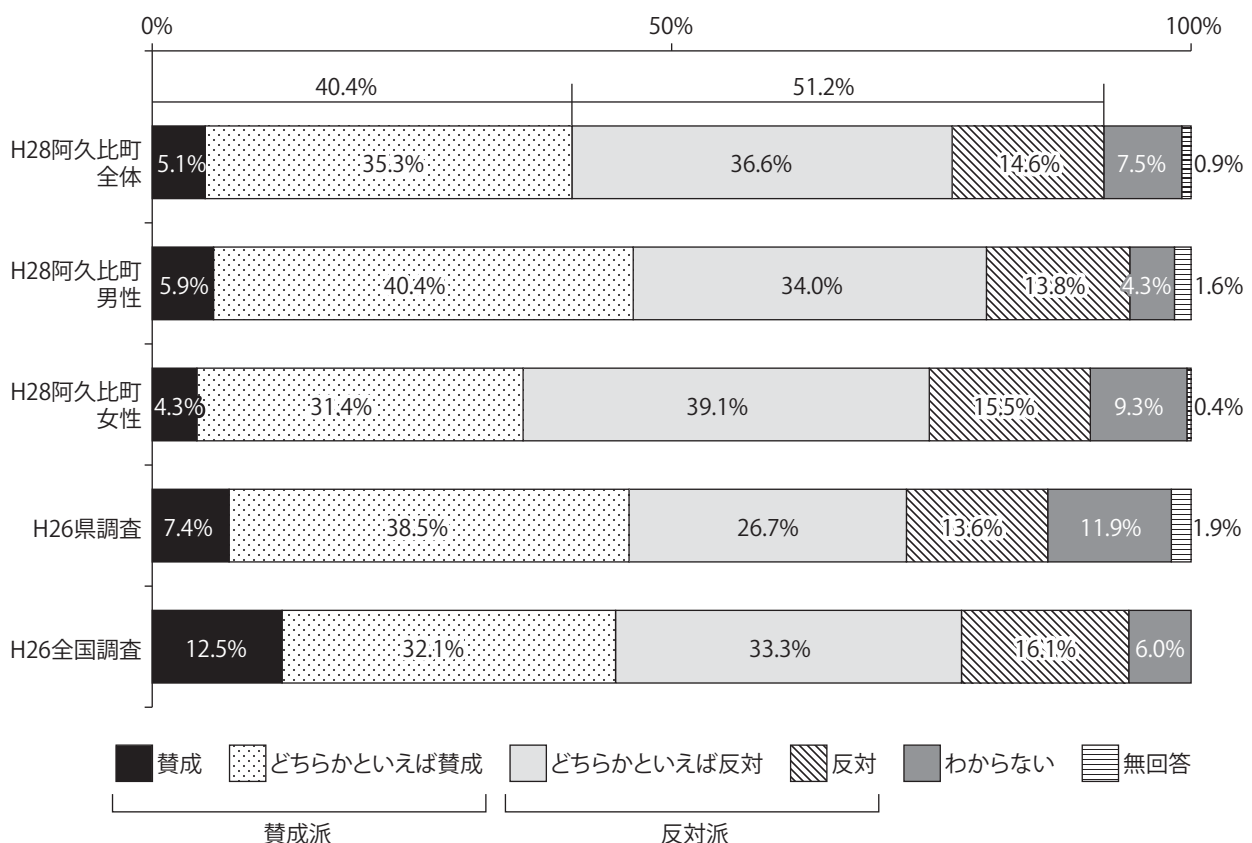
2 阿久比町の男女共同参画の状況

(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについて

平成 28 年に実施したアンケート調査結果によると、「夫は外で、妻は家庭で」という考えに賛成する人が全体で 40.4%を示しました。県(45.9%)や国(44.6%)の結果と比較するとその割合は低いものの、本町においても固定的性別役割分担意識を持つ人が依然として少なくないことが明らかになりました。また、この考えに賛成する人は女性より男性が多い傾向にあることもうかがえました。

この考えへの賛成理由としては「妻が家庭を守った方が子どもの成長などにとって良いから」、反対理由としては「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も回答を集めました。

図1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」の賛否

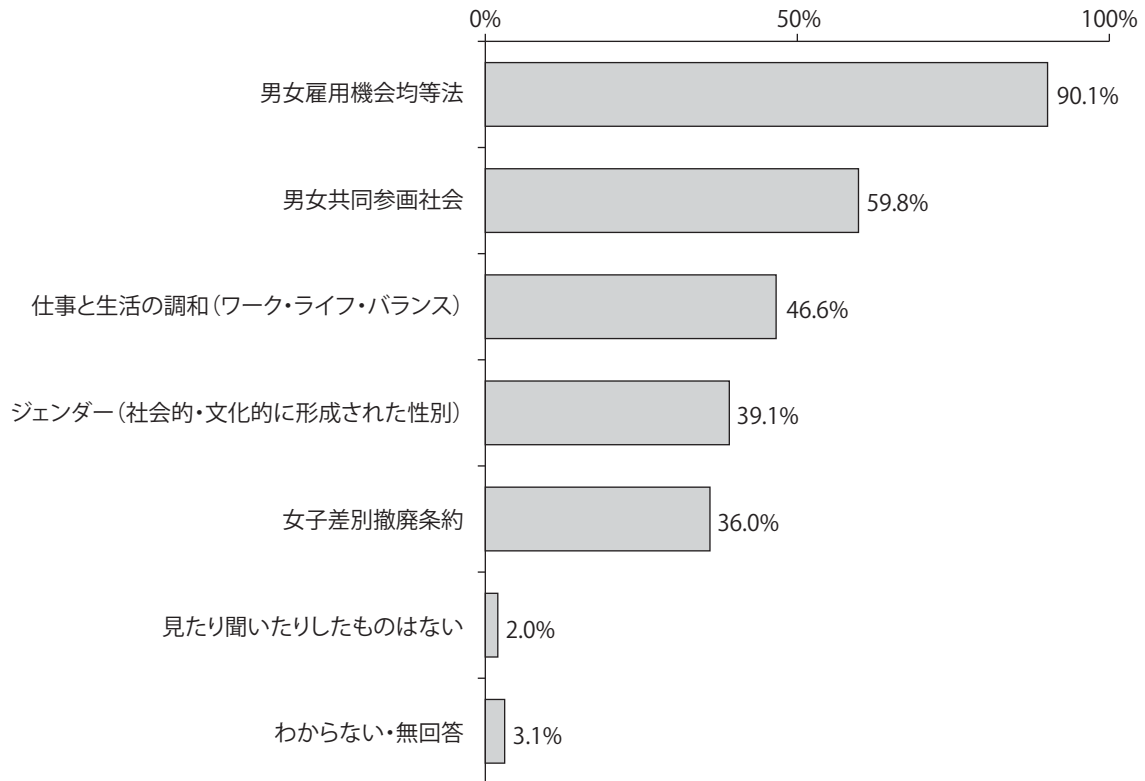


(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査(平成28年)」
 愛知県「第3回県政世論調査(平成26年)」
 内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査(平成26年)」

(2) 男女共同参画社会に関する言葉の認知度について

「男女雇用機会均等法」の認知度は非常に高くなっていますが、ワーク・ライフ・バランスなど男女共同参画に関係する重要語の認知度はまだ十分に浸透していないことがうかがえます。

図2 言葉の認知度



(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査(平成28年)」

(3) DVやセクハラについて

DV^{※1}を受けたことがあると答えた人の割合は、男性 5.3%、女性 8.9%で前回調査（平成 23 年度）より増加しました。セクハラ^{※2}を受けたことがあると回答した人の割合は女性の方が多く（15.1%）、女性の方が被害が多いことがうかがえます。

図 3-1 DVを受けた経験があると答えた人

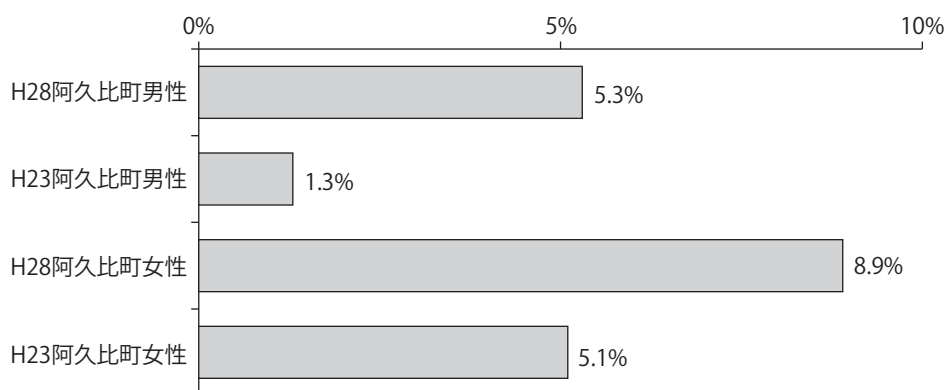
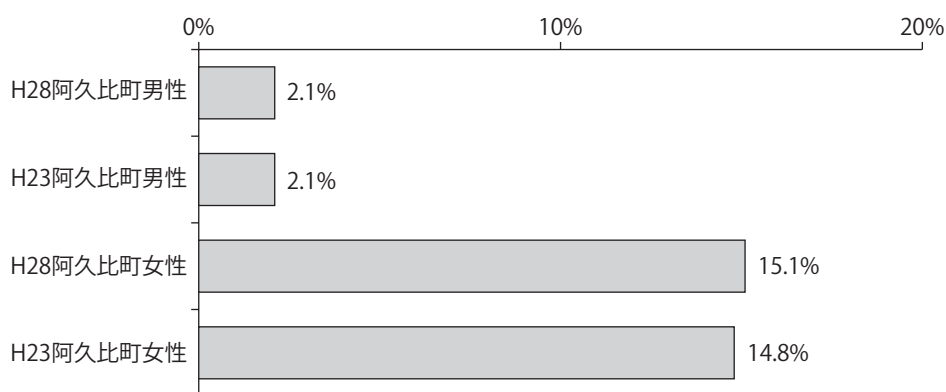


図 3-2 セクハラを受けた経験があると答えた人



(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査（平成 28 年）」、「男女共同参画住民意識調査（平成 23 年）」

※1 DV（ドメスティックバイオレンスの略）・・・

配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力。暴力の種類は、身体的暴力だけでなく、性的、精神的暴力が含まれる。（内閣府男女共同参画局ホームページ「配偶者からの暴力被害者支援情報」参考）

※2 セクハラ（セクシュアルハラスメントの略）・・・

相手の意に反した、性的な行動や発言が含まれる。また、職場においては、性的な言動に対する拒否などの対応により不利益を受けることや、性的な言動により就業環境が害されることがあげられる。（厚生労働省ホームページ「男女雇用機会均等法のあらまし（パンフレット）（平成27年5月）」参考）

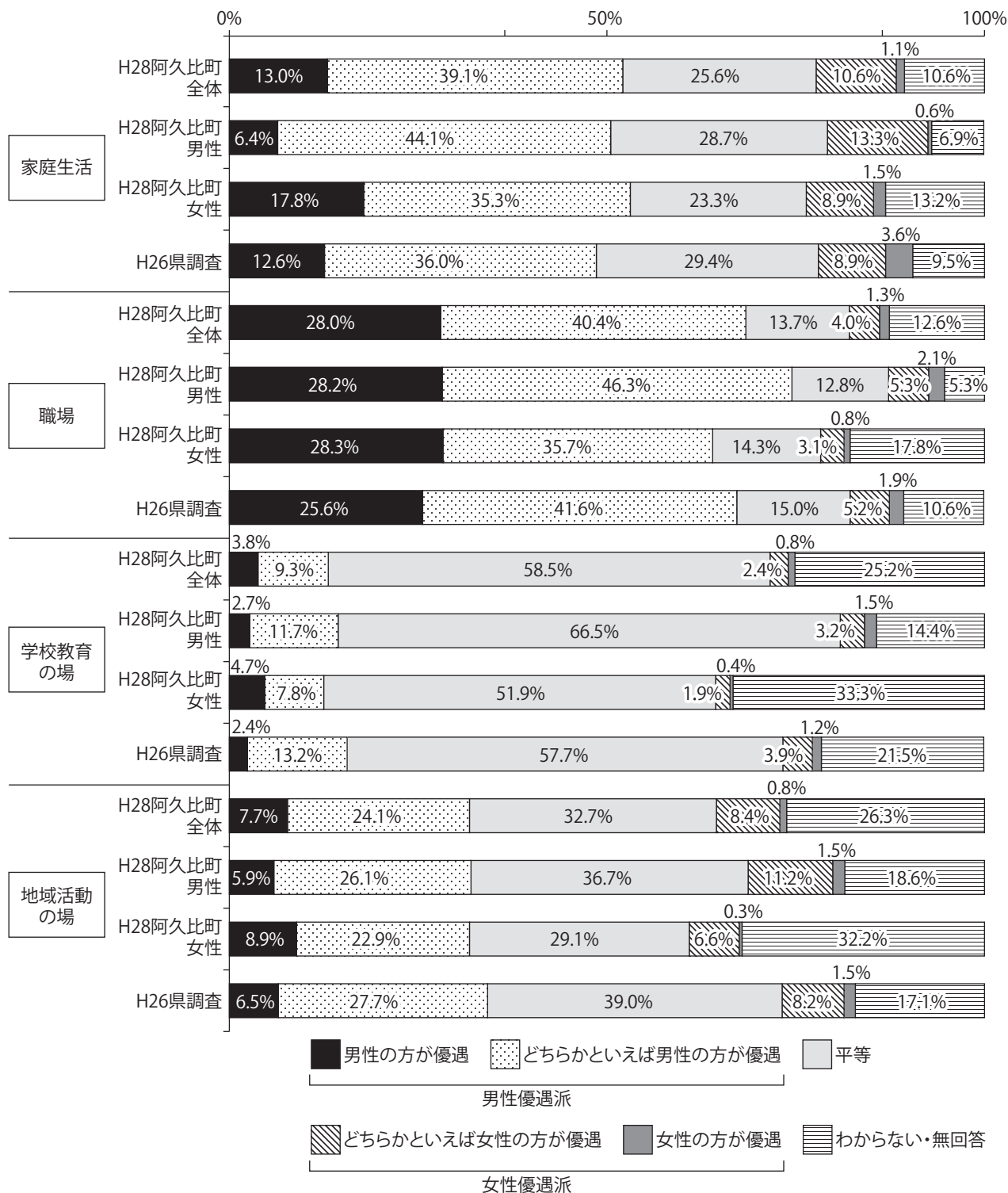


(4) 男女の地位の平等感について

- 「家庭生活」では、「男性優遇派」回答者割合（52.1%）が最も高くなっています。
- 「職場」についてみると、今回調査した4場面の中で「男性優遇派」回答者割合（68.4%）が最も高く、比較的不平等感が強い傾向にあるとかがえます。
- 「学校教育の場」についてみると、「平等」回答者割合（58.5%）が今回調査した4場面の中でも最も高くなりました。
- 「地域活動の場」についてみると、「平等」（32.7%）と「男性優遇派」（31.8%）回答者割合が拮抗しています。



図4 男女の地位の平等感について



(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査 (平成 28 年)」
愛知県「第 3 回県政世論調査 (平成 26 年)」

(5) 審議会等への登用状況について

本町における、平成 28 年 4 月 1 日時点の審議会等への女性の登用率は 21.7% で、男性が多く登用されている状況です。

表 5 審議会等への女性の登用状況について

審議会等数	うち女性委員を含む審議会等数	総委員数		審議会等委員の女性比率(%)
			うち女性委員等数	
30	26	405	88	21.7

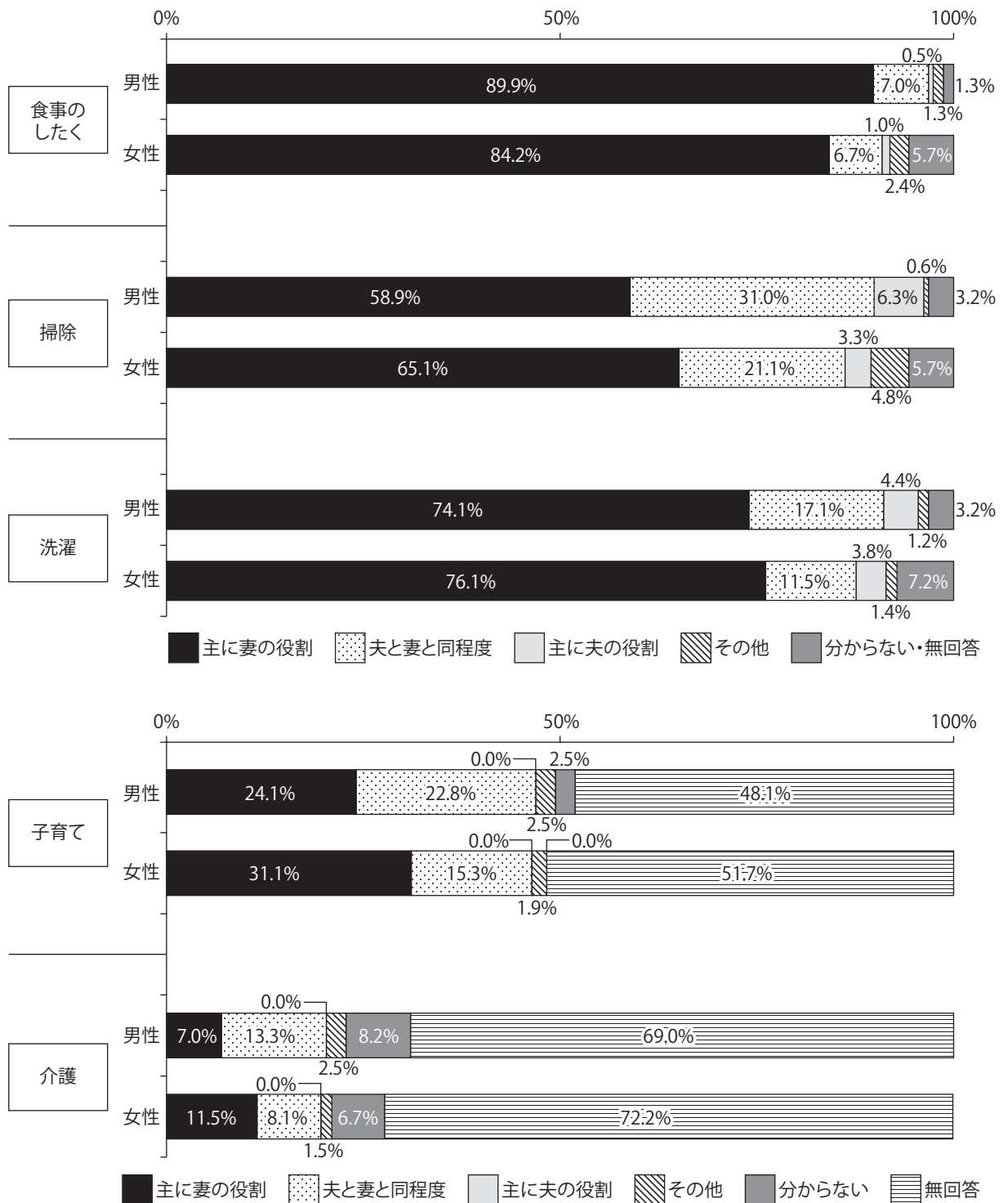
(参考資料) 平成 28 年 4 月 1 日時点における阿久比町役場内調査

(6) 家庭での夫婦の役割分担について

「食事のしたく」、「掃除」、「洗濯」の現実の夫婦の分担状況はいずれも、「主に妻の役割」と回答した人の割合が最も高くなりました(図 6-1)。いずれもその割合は半数を超え、特に「食事のしたく」については 8 割を超えています。

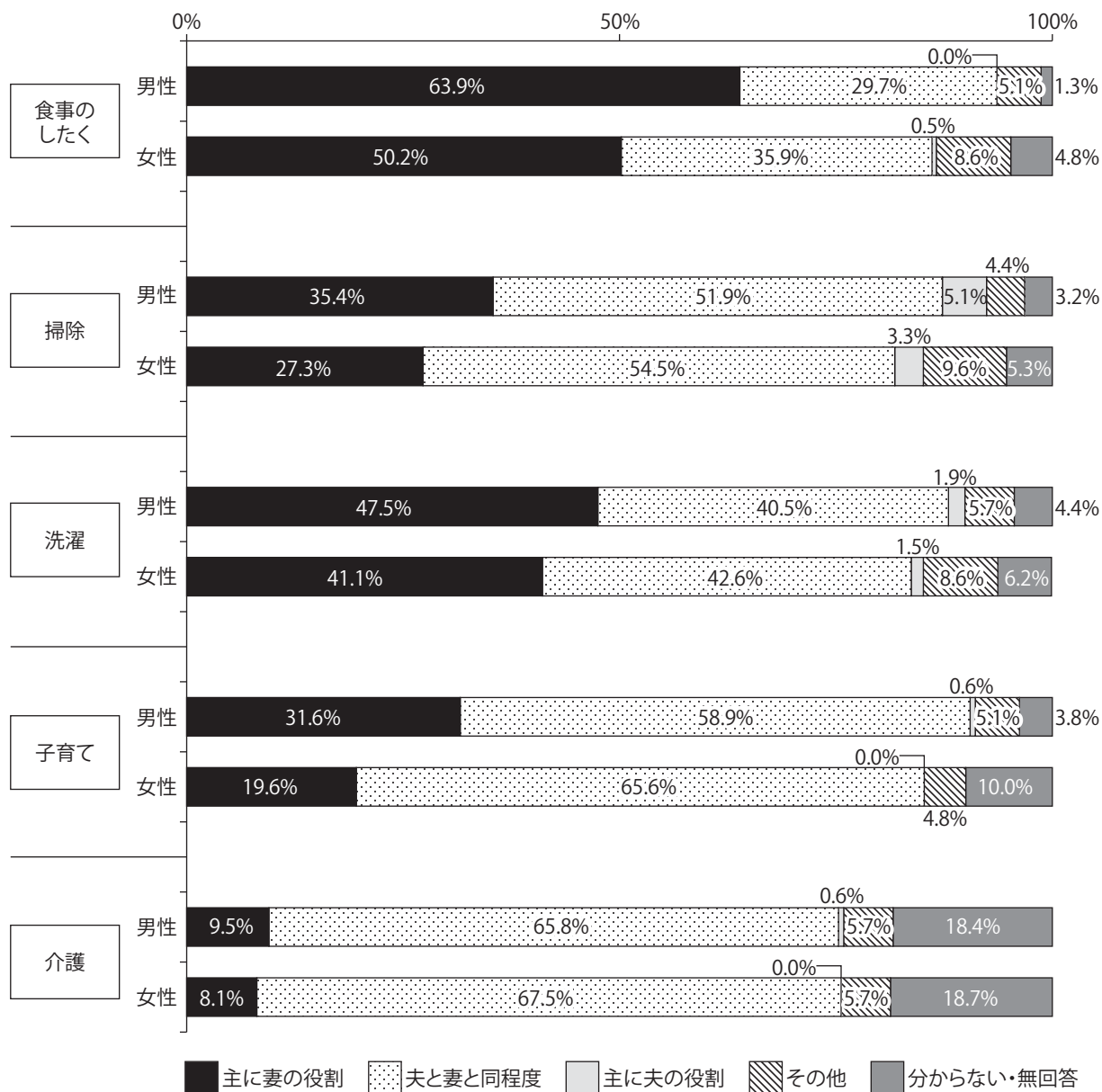
その一方で、これらの家事を担う妻(女性)側の理想をみると、「夫と妻と同程度」と回答した人の割合は、「食事のしたく」は 35.9%、「掃除」は 54.5%、「洗濯」は 42.6%といずれも半数近くとなっています(図 6-2)。しかし、現実として「夫と妻と同程度」と回答した人の割合は、「食事のしたく」は 6.7%、「掃除」は 21.1%、「洗濯」は 11.5%となっており、理想と現実の間で隔たりが生じています。

図 6-1 現実（結婚している人）



(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査(平成28年)」

図 6-2 理想（結婚している人）



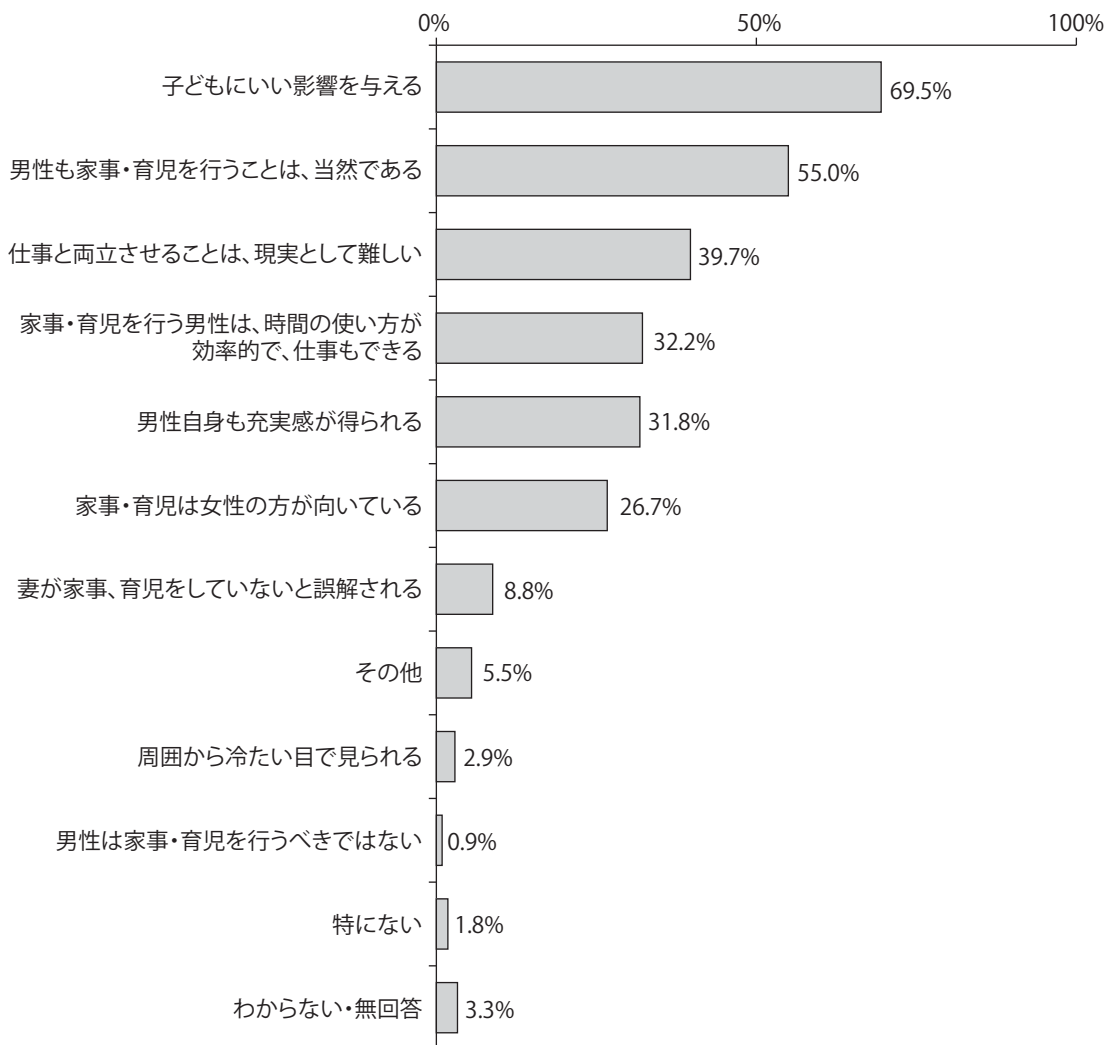
(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査(平成28年)」

(7) 男性の家庭への参画について

(7) -1 男性の家事・育児を行うことについてのイメージ

回答が上位にきた項目は、「子どもにいい影響を与える」(69.5%)、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(55.0%)といった、男性が家事・育児を行うことについて前向きなイメージを持つ内容でした。その一方で、「仕事と両立させることは、現実として難しい」と回答した人の割合(39.7%)が上位にきています。男性が家事・育児を行うことについて前向きなイメージを持つ人は多くいますが、現実的に「仕事」と「家事・育児」の両立は困難と考える人が少なくないことがうかがえます。

図 7-1 男性が家事・育児を行うことについてのイメージ

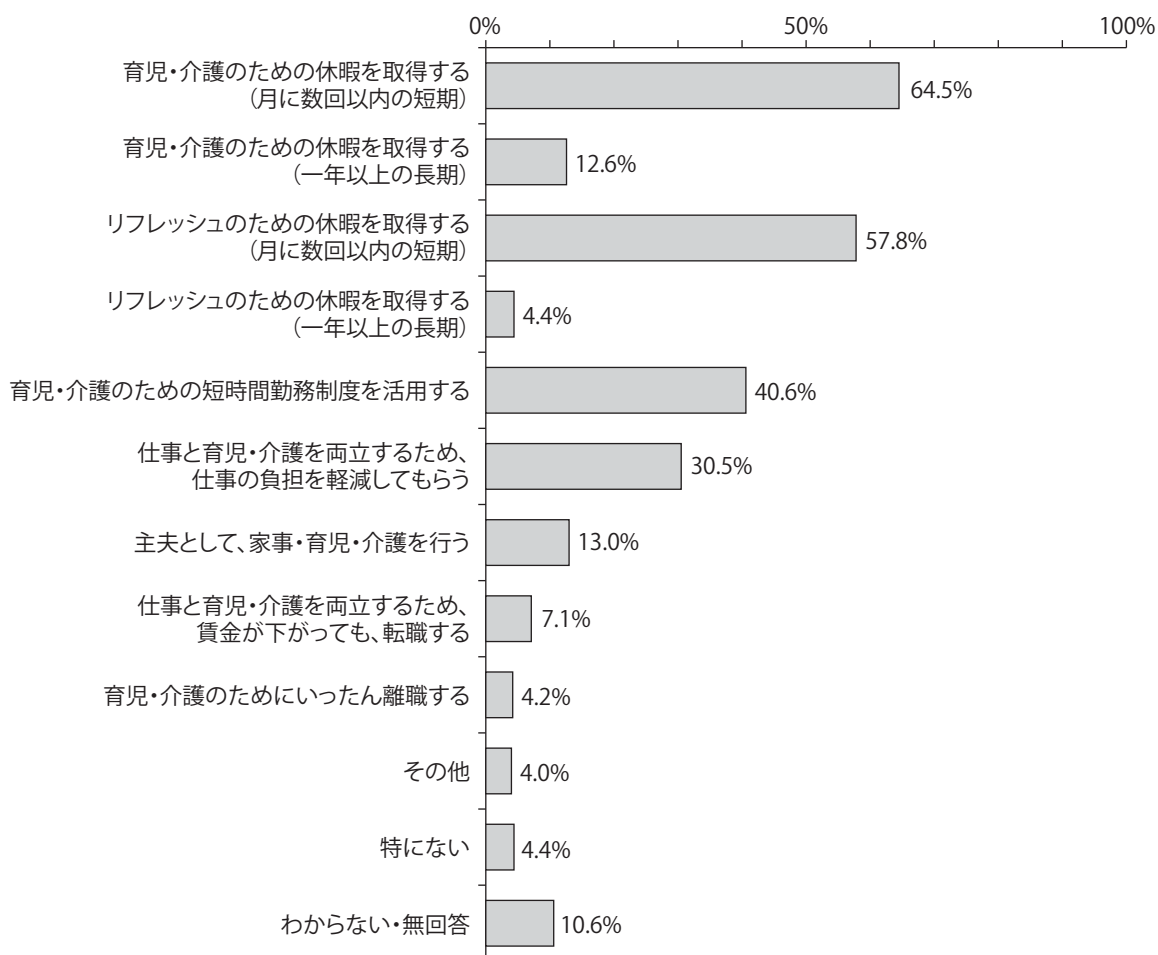


(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査(平成28年)」

(7) -2 男性の柔軟な働き方についての意識

回答数が上位にきた項目は、「育児・介護のための休暇を取得する（月に数回以内の短期）（64.5%）」、「リフレッシュのための休暇を取得する（月に数回以内の短期）（57.8%）」、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する（40.6%）」でした。男性の育児休暇取得率が低いと一般的にいわれていますが、半数を超える人が、短期を条件に男性の育児や介護のための休暇取得について受け入れられるようです。しかし、男性が1年以上育児休暇を取得することを受け入れられる人の割合は著しく低くなっており、また今回実施したアンケート調査の中でも「男性の育休が理解されにくい。理解が得られるよう対策を。」といった要望が寄せられました。

図 7-2 男性の柔軟な働き方について



(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査（平成 28 年）」

(8) 地域活動について

(8) -1 参加状況

「現在参加している」が34.7%、「かつて参加していたが現在は参加していない」が34.2%、「一度も参加したことはない」が28.5%となりました。

性別で見ると、「現在参加している」と回答した人の割合は男性の方が高くなりました。

年齢で見ると、20代から30代までの若年層では、「一度も参加したことはない」と回答した人の割合が最も高く、半数近くとなっています。さらに、40代以降でも未経験者が2割程度いるという結果となりました。「現在参加している」と回答した人の割合が高い世代は、40代（43.1%）となっています。

表 8-1 参加状況について

	現在参加している	かつて参加していたが現在は参加していない	一度も参加したことはない	無回答	総計
全体	34.7%	34.2%	28.5%	2.6%	100.0%
男性	39.9%	31.4%	26.6%	2.1%	100.0%
女性	31.4%	36.8%	28.7%	3.1%	100.0%
20代	21.1%	23.7%	52.6%	2.6%	100.0%
30代	33.7%	18.1%	48.2%	0.0%	100.0%
40代	43.1%	32.3%	24.6%	0.0%	100.0%
50代	31.3%	45.3%	23.4%	0.0%	100.0%
60代	34.9%	45.0%	18.3%	1.8%	100.0%
70代以上	39.5%	36.0%	14.0%	10.5%	100.0%

(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査(平成28年)」
 ※回答数が上位の項目を色付けしています。

(8) -2 参加したい地域活動の内容

今後、または引き続き参加したい活動について、最も回答した人の割合が高かったのは、「ごみゼロ運動など環境活動」(32.7%)でした。

性別で顕著な違いが出たのは、「大字・自治会の活動」(男性 26.1%、女性 10.1%)と「防災・防犯活動」(男性 27.7%、女性 9.7%)で、男性が女性を上回りました。「教養・趣味などのサークル」(男性 23.9%、女性 36.8%)については、女性が男性を上回っています。

表 8-2 参加したい地域活動について

	PTAや子ども会	子どもに関わる活動	いきいきクラブや高齢者の会	高齢者に関わる活動	大字・自治会の活動	防災・防犯活動	ごみゼロ運動など環境活動	教養・趣味などのサークル	女性の会や地域女性団体 (又は男性の会や地域男性団体)	その他	いずれも参加したくない	わからない・無回答
全体	11.0%	21.9%	12.4%	13.2%	16.6%	17.2%	32.7%	30.9%	6.0%	3.1%	11.9%	17.9%
男性	8.5%	21.3%	12.8%	12.2%	26.1%	27.7%	33.0%	23.9%	4.8%	3.2%	14.4%	14.9%
女性	12.4%	22.5%	12.0%	14.0%	10.1%	9.7%	32.9%	36.8%	6.6%	3.1%	10.1%	19.8%
20代	15.8%	39.5%	0.0%	7.9%	0.0%	7.9%	28.9%	18.4%	2.6%	5.3%	10.5%	28.9%
30代	21.7%	38.6%	1.2%	3.6%	3.6%	10.8%	37.3%	20.5%	2.4%	0.0%	14.5%	21.7%
40代	24.6%	30.8%	1.5%	4.6%	24.6%	21.5%	33.8%	32.3%	3.1%	1.5%	12.3%	13.8%
50代	4.7%	17.2%	1.6%	3.1%	21.9%	14.1%	23.4%	31.3%	9.4%	3.1%	10.9%	23.4%
60代	4.6%	11.0%	18.3%	16.5%	20.2%	22.0%	35.8%	38.5%	4.6%	6.4%	11.0%	10.1%
70代以上	0.0%	9.3%	37.2%	34.9%	23.3%	20.9%	33.7%	38.4%	11.6%	2.3%	11.6%	16.3%

(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査(平成28年)」

※回答数が上位の項目を色付けしています。

(9) 仕事と仕事以外の生活の両立について

- 希望として、“「仕事」と「家庭生活」をともに優先 (20.5%)”、“「家庭生活」を優先 (15.5%)” が回答数の上位を占め、男女ともに仕事以外のことも優先したいと希望する人が少なくないことがうかがえました。
- 現実として “「仕事」を優先 (28.0%)” が最も高く、男性 (43.1%) が女性 (17.8%) を大幅に上回りました。 “「家庭生活」を優先” する人は、男性が 4.8%、女性が 25.2%と男女で差がみられました。希望の上位にあった “「仕事」と「家庭生活」をともに優先” について、現実をみると5ポイント近く減少しました。これらのことから仕事以外のことも優先したいと希望している人は少なくありませんが、現実には仕事を優先している人が比較的多く、特に男性はその傾向が強いことがうかがえます。

図 9-1 希望

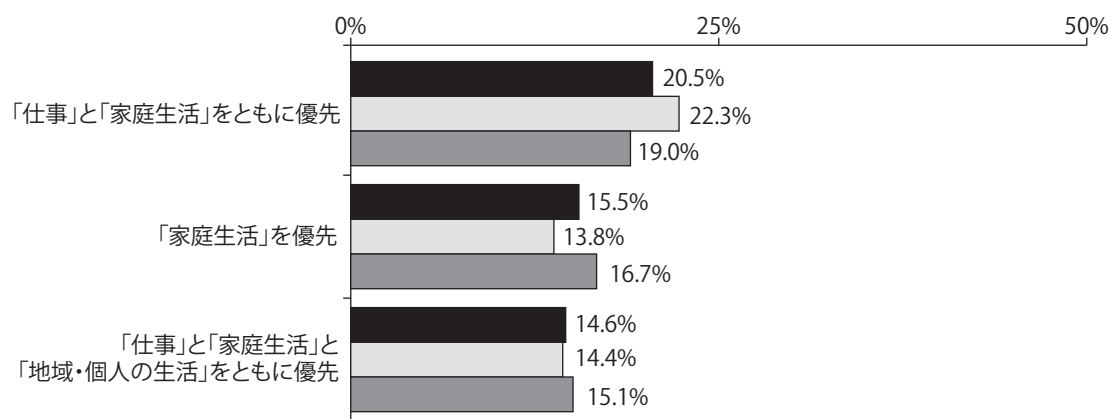
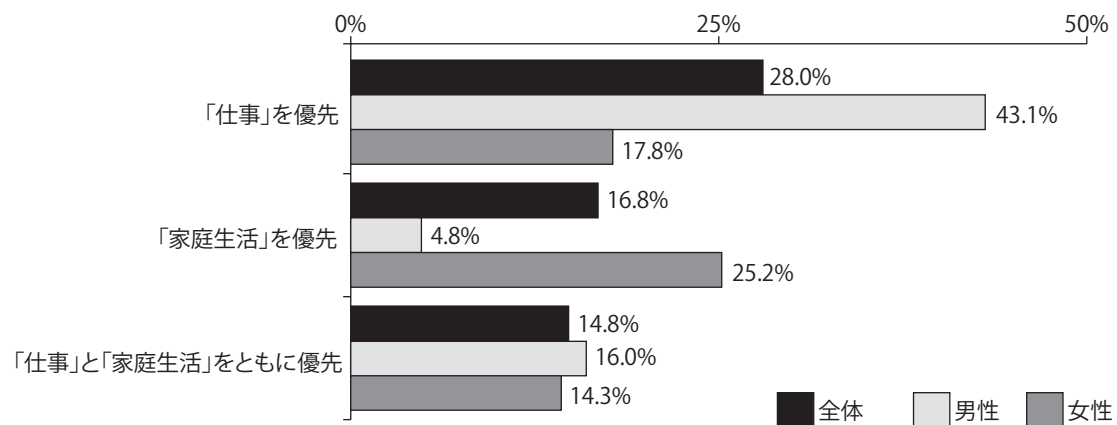


図 9-2 現実

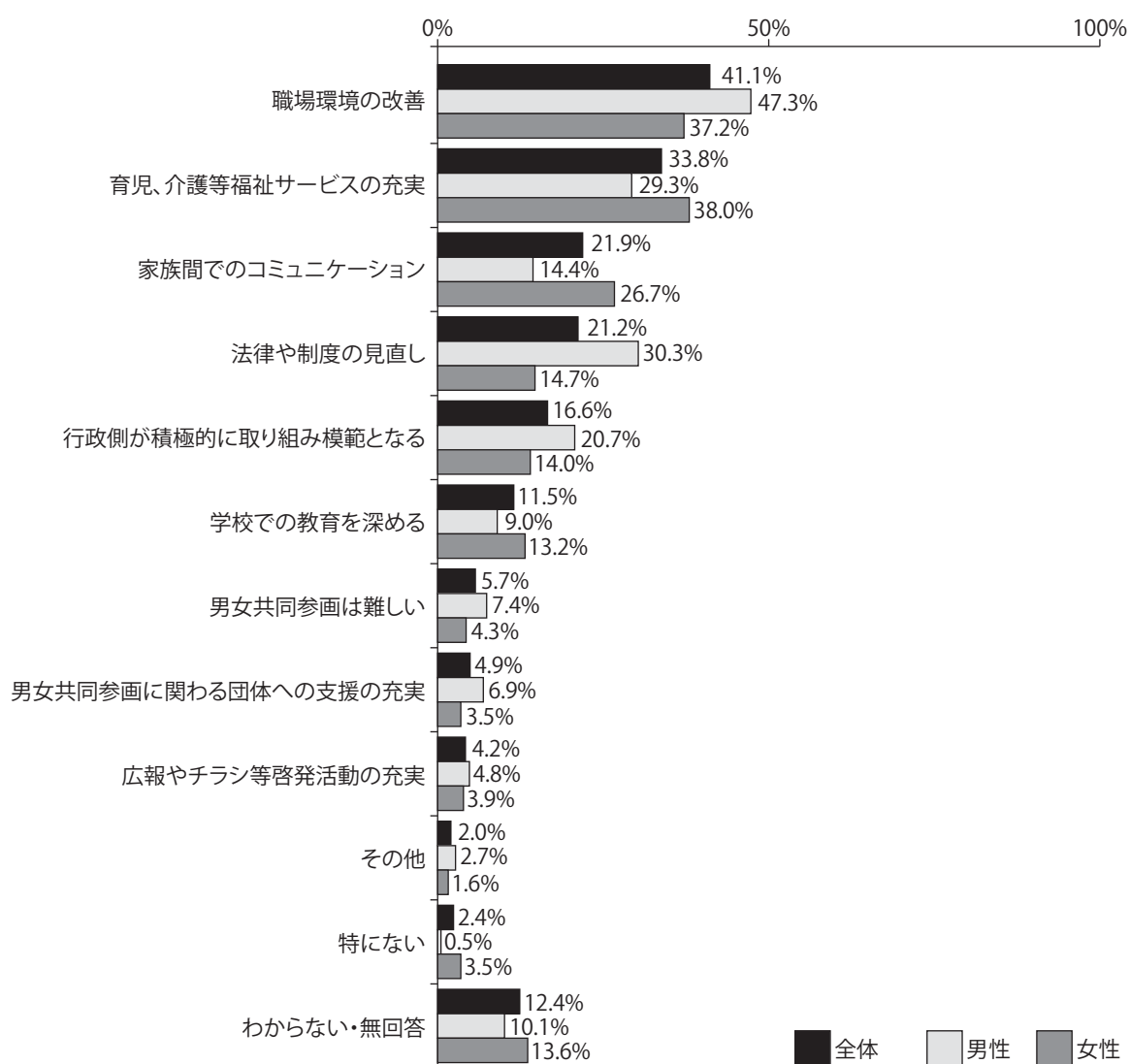


(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査 (平成 28 年)」

(10) 男女共同参画社会の実現に必要なと思うこと

最も求められていることは「職場環境の改善 (41.1%)」でした。「職場」は性別による不平等感が強い結果となっている等、環境改善が強く求められているようです。次に「育児、介護等福祉サービスの充実 (33.8%)」が挙げられました。「家族間でのコミュニケーション」の回答者割合は、女性 (26.7%) が男性 (14.4%) よりも上回る特徴も示しました。さらに、行政側が積極的に取り組む要望も寄せられました。

図 10 男女共同参画社会の実現に必要なと思うこと



(参考資料) 阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査 (平成 28 年)」

3 課題まとめ

- 「夫は外で、妻は家庭を」といった固定的性別役割分担意識を持つ人が依然として少なくありません。特に、男性の方が賛成傾向が強いことがうかがえます。賛成と反対理由を知り、それぞれの理解を図っていくことが重要になります。
- ワーク・ライフ・バランスを初めとする男女共同参画に関わる言葉の認知度が依然として高くありませんので、啓発活動を行う必要性があります。
- DVやセクハラ**の被害防止策**を講じる必要性があります。
- 職場では、男女の不平等感が強いこと、環境改善を求める人が多いことがうかがえました。
- 家事は夫婦同程度を理想としている人は少なくありませんが、**現実には圧倒的に妻が負担**していることがうかがえました。さらに、男性が家事を行うことには良いイメージを持つ人が多い一方で、「仕事との両立はできない」と考える人は少なくなく、**多くの男性が仕事を優先**にしているようです。
- 女性の出産・育児・介護等による離職率が高くなっています。**保育サービスの充実等、子育てと働くことが可能な環境を整える**ことが求められています。

✧ 町民の皆さまから寄せられた声（阿久比町「男女共同参画に関するアンケート調査（平成 28 年）」より一部抜粋）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 目先の数値で人を区別する親にならないためにも、子供の日々の様子をしっかりと見ていて下さい。変化に気づく親になるよう、家庭も学校もとても大切だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士の給料を上げたり、休暇を多くすべき。そして保育園を多くして、待機児童を減らすことは、早急に行政が主導となって行うべき。そうすれば女性も安心して働く事が出来、男女共同参画社会が実現すると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、旦那から経済DVを受けています。半田市には、DVによるシェルターがありますが、阿久比にも作って欲しいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもとかかわる職に就いている身として、”男だから” ”女だから” という考えを子供たちに植え付けてしまわないようなかかわりをしていきたいと日頃から思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 男、女というよりも個人を大切にする社会だといいなと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ まず目指すことは阿久比町と言う行政が手を付けられる、男女共同参画は何か、町が法律的、財政的に何が出来るかを、絞り込んで最初に手を付ける物が何かを選ぶこと。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的地位の高い年配の男性の方の意識を変える事が重要だと思います。本気で男女共同、と皆さん考えているように思えません。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私が、ずっと働いて思う事は、「母も外で働きたかったかもな」と。人には得意・不得意があるので、みな外で働け！とは思いませんが、どんな人にも男でも女でも、さまざまな機会がある社会になるといいなと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 男性の育休や時短勤務が理解されにくい。周りからの理解が得られるよう、何かしらの対策をお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本来は、男は外、女は内と思う。幼い子を抱きしめ、抱きしめられた思い出は一生消えない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳児未満の保育園入園条件を、3歳児以上と同等に緩和すべき。これでは、働きながら育児をする母親を受け入れていないのと一緒に。